

キヌサヤエンドウ新品種「紀州さや美人」の育成

農業試験場暖地園芸センター

【研究のねらい】

本県では、他産地との差別化・収穫の省力化を目的に、キヌサヤエンドウを2莢付きの「アベック莢」として出荷しています。「アベック莢」では果梗に発生する小ほう(通称「ハカマ」、図1 赤丸部分)を出荷調製時に除去する必要があり、主に栽培されている品種「美笹」ではその発生が多く、余分な労力を要しています。そこで、小ほうの発生が少なく、収量性に優れた品種の育成に取り組めます。

【研究の成果】

- ①「紀州さや美人」は「美笹」より小葉が少なく、「紀州さや2号」より草丈が長い品種です(表1)。
- ②「紀州さや美人」は「美笹」及び「紀州さや2号」より開花始めが早く、初花房節位が低い品種です(表1)。
- ③「紀州さや美人」の総収量は「美笹」とほぼ同等で、「紀州さや2号」より多い品種です(図2)。
- ④「紀州さや美人」の小ほう発生率は、4月までの調査期間を通して「美笹」および「紀州さや2号」よりも低く推移します(図3)。

【成果の活用面・留意点】

- ①「紀州さや美人」は2011年6月に品種登録出願公表されています。
- ②種子の増殖は和歌山県が許諾する種苗生産業者で行い、栽培は和歌山県内に限ります。

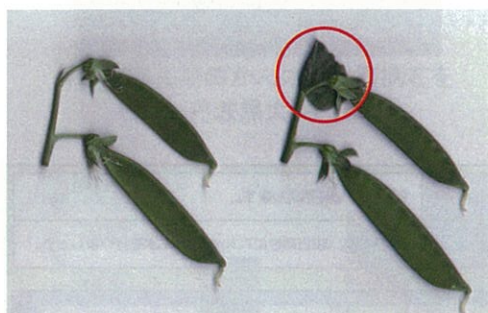


図1 「紀州さや美人」(左)と主要品種「美笹」(右)
赤丸部分が小ほう(ハカマ)

表1 「紀州さや美人」の主要な生育特性

品種	小葉数 ^z (対)	草丈 ^y (cm)	開花始め (月/日)	初花房節位 (節)
紀州さや美人	1.6 b ^x	240.7 a	10/19	14.1
美笹	2.1 a	231.3 ab	10/26	16.1
紀州さや2号	1.8 b	219.5 b	10/29	16.9

は種日:2010年9月13日 調査日:^z2010年12月14日、^y2011年1月5日
測定方法は野菜品種特性分類審査基準(えんどう種)に基づく

^x異なるアルファベット間にTukeyの多重検定において5%水準で有意差あり

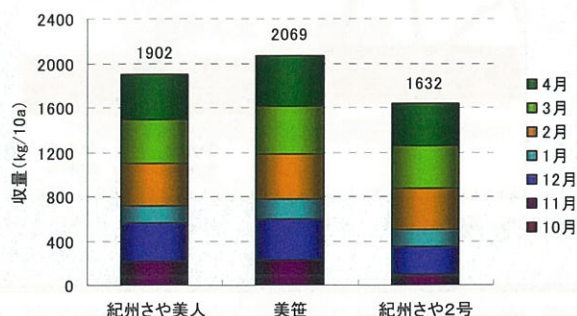


図2 「紀州さや美人」の収量性

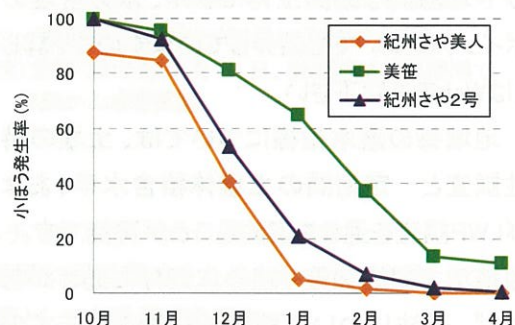


図3 「紀州さや美人」の月別小ほう発生率の推移

(問い合わせ先 0738-23-4005)